

○ これからの天気傾向について

平成28年8月中旬から9月末までについて、簡潔に解説します。

先週4日に発表された1ヶ月予報では、これから西日本ばかりではなく、全国的に平年を上回る暑い夏、そして9月にかけて残暑が厳しいとの予想になっています。しかも、13日からは高温に関する異常天候早期警戒情報が出されています。このような時、天気傾向を大きく変えるのが、台風になります。台風の発生も多くなっていますので、併せて解説します。

1 これからの天気(8月中旬～9月末)

(1) 気温：全国・西日本から東海にかけて平年より2～3度高い気温で、8月中は猛暑日・熱帯夜が連続することが予想されます。

関東から北では、高気圧の周辺部で、北からの寒気も影響を次第に受けやすくなってきます。

宮崎・このような中で、太平洋高気圧(サブハイ)が中国から東シナ海にかけて位置するため、これまでと似た天気傾向が予想されます。

沿岸部・最低23～25度最高31～33度(平年並み)

山沿い・最低21～25度最高33～36度(やや高い)

(2) 日照時間：全国的に晴天傾向になるため、8月中は十分あるが、9月に入ると、関東から北では、平年並みかやや少ない傾向になりますが、台風の接近・上陸があると大きく変わってきます。

(3) 雨量：これも同じ傾向で、晴天傾向のため平年より少ない傾向となりますが、やはり台風の動向で変わってきます。

2 この夏の特徴・今年はこのことが特徴になります。

(1) 西暑東冷の傾向になっています。この2、3日全国的に猛暑になっていますが、本来の暑さではないです。台風5号の関東沖を北上しているため、日本海側から北寄りの風で、フェーン現象が起きているため、暑くても湿度が低い状態です。台風5号が通過後は平年並みに戻ってきます。

(2) 平年の夏であれば、関東の南東海上にサブハイが位置するのですが、今年には北からの寒気が南下しやすく、東西に分断する傾向があります。

そのため、サブハイが中国大陸から東シナ海と日本の遙か東方の2つに分かれているため、関東から北が気圧の低い部分になっています。

今後再び、同じ傾向になる可能性があり、残暑の厳しい西日本、秋の早い東日本になるのではと個人的に予想しています。

(3) 日本付近の海水温度が、全体的には高く、特に日本海で+3度となって

います。低いのは、関東の南東方から東海上で - 1 度になっています。

そのため、現在の猛暑の要因であるフェーン現象を強力にしている状態です。また日本の南、東シナ海では、30度前後となっているため台風がこの領域を通過する場合は、台風の大型化や強力化、勢力の維持に繋がるため、警戒が必要です。

### 3 台風発生と今後の見込み

- (1) 発生数：今年は台風の発生が遅く、7月に入ってからでしたが、7月に4個、8月は、10日現在2個となっています。すでに、6号の後にも、すぐに2個程度発生することが予想されていますので、これからも、発生のペースが速いと見ています。
- (2) 今後の見込み：これまでの台風のコースは、第1号だけが日本付近を窺うコースでしたが、それ以外は、関東の東海上、ルソン島から南シナ海に向かうことが多かったです。しかし、今後気圧配置が変わり、サブハイが東に移動し、本来の位置になると、日本付近に接近しやすくなるため、進路に注目していく必要があります。

### 4 注意点

7月末からハウス関係は一段落していますが、お盆明けから、ハウス栽培の準備に入ってきます。また、普通期水稻も開花時期を迎えますので大変重要な時期になってきます。露地野菜を中心に必要な対策をしてください。

今後も全国的には残暑傾向で、高温になりやすいのですが、宮崎の沿岸部は平年並みの気温で推移していますので、比較的恵まれています。今後の気圧配置の変化でどう変わるのか注目する必要があります。

一方、山沿いの地域では、東風（海風）の影響が少なく気温が上がりやすい傾向になりますので、農作物の管理には注意してください。

なお、逆バージョンの場合は、南西～西風になり、沿岸部で高温になるパターンです。

このように、宮崎でも厳しい残暑、日照りも想定されます。それを解消するのが台風の接近になりますが、リスク管理の面で大変なことが多くなる時期です。必要な情報を入手して早めの判断で、リスクを軽減してください。

総合農業試験場企画情報室 村岡精二（気象予報士）